

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677500110
法人名	社会福祉法人 恵仁会
事業所名	グループホーム あいら
所在地	鹿児島県鹿屋市吾平町上名5324番地2 (電話) 0994-58-5539
自己評価作成日	平成25年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域の中で春夏秋冬を感じながら、共に楽しく過ごしましょう。美味しい物を美味しく食べて、楽しい時は一緒に笑い、悲しい気持ちを分け合えられるそんな家を目指します。」の理念の下、日頃より地域の方々との交流を心掛け、地区の清掃作業に参加したり、お茶出ししたり、近くの物産館や公園、観光農園などを利用する事で繋がりを持つようになっている。

又、美味しい物を美味しく食べて頂く様に、季節の物、地域で採れたもの、新鮮な物など地産地消を心掛けて、食事を提供している。

利用者様の体調管理には特に気を付けて、体調変化の早期発見に努め、訪問看護師や主治医に報告、相談、受診して病状の悪化の無い様に力を入れている。

職員は日頃より、認知症や高齢者の疾患についての学習を深め、認知症を理解して日常生活の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、吾平市郊外の黒羽根地区の閑静な集落に立地している。木造で和風の建物が周囲によく溶け込んでいる。太陽光や風力発電の設備が整えられ、全床暖房である。散歩や買物の際には挨拶や会話を楽しめる。玄関前庭にベンチを置き、自販機も設置してある。介護に関する相談を受けたり助言をするなど地域との交流を続けている。

・運営推進会議が充実しており、地域と合同での夏祭りが実施できた。避難訓練に参加してもらった後に会議を行い、ヘルメットにライトを付ける必要などの助言をもらい、改善に繋がっている。

・協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携が図られ、定期的な受診や緊急時の対応等の態勢が整っている。理学療法士による指導、さらには訓練や口腔ケアも大切にしている。

・利用者個人をよく把握し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、持てる能力を活かした役割分担を支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域の中で季節を感じながら、又地域の方々とふれあいながら生活して頂ける様に実践している	朝の申し送り時や職員会議などを利用して、理念に沿ったケアについて振り返り実践に取り組んでいる。理念は玄関やリビングに掲示してある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から挨拶を交わし、清掃作業やお茶出しなどしたり、年に1回、祭りを開催して交流している。買い物は地域の店を利用している。中学生の福祉体験を受け入れている。町内文化祭に作品展示をし、見学に行ったりしている。	散歩や買物の際には挨拶や会話を楽しんでいる。また地域の清掃作業の時にお茶を出したり、事業所開催の祭りには地域住民を招待している。住民からの認知症相談にも対処している。小・中学生との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域運営会議や行事に参加した時、認知症の症状や支援の方法など、理解して頂ける様に説明している。又、ホーム道路沿いに掲示板を設置して広報している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービス内容やアクシデントの報告を行い、委員の方々から意見をもらっている。又、一緒に避難訓練や消火訓練など行っている。</p>	<p>会議は定期的開催し、外部評価や事業所の報告を行い、現在取り組んでいる内容についても意見をもらっている。夜間の避難訓練後に会議を設け、ヘルメットにライトや、声の大きさや、日頃の通路の整頓などについて意見や気づきを話し合い、状況改善に努めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>情報提供や事故報告など速やかに行う様に心掛けている。</p>	<p>市の担当者とは連絡や報告を密に取っている。市主催の研修会などにも積極的に参加している。また福祉担当者とも細かに連携を取り、日頃から連携関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をしないケアは当たり前として、拘束しないケアをミーティングなどで話し合っている。日中は施錠せず職員間で連携を取っている。</p>	<p>毎月、職員会議で勉強会を行い、拘束のないケアに取り組んでいる。昼間は施錠せず職員間の連携で見守りに努め安全で自由な暮らしを支援している。事故防止のための身体拘束については家族の同意をもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会に参加して知識を持ち、高齢者に尊敬の念を持って接するように心掛け、精神的に疲れない様に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会にて権利擁護について学んでいる。成年後見制度については、各利用者の必要性を見極めている。現在は必要性がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時は家族、利用者様に説明をしっかりと行い、納得して頂いている。改定時は家族会などで説明したり、文書にて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段からコミュニケーションを取り、いつでも意見要望を聞いている。面会時は家族に近況を伝え、意見要望を聞いている。玄関に意見箱の設置している。家族会にてアンケートで要望を伺った。家族会後の交流会で意見を伺った。	利用者からは日々の関わりの中で、家族からは面会時や電話連絡で、またアンケートもその良い機会としている。家族の意見により職員の言葉づかいに反映させた例もある。日頃から何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>年度初めに、運営規定や重要事項について説明し周知している。年2回の職員自己評価をして、事業所への提案、要望を面接時に聞いている。又、ミーティングでも意見交換している。</p>	<p>管理者は、月1回、全職員参加によるミーティング等で意見や提案を聞き、反映を図るよう心がけている。入浴介助でも具体的な改善がなされた。また、相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。サービスの質の向上に繋がっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員自身の自己評価や管理者から見た職員の努力や実績を評価している。資格取得に応じて手当がある。なるべく精神的、身体的負担にならない様に勤務調整している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の勉強会を月1回、行っている。自主参加や必須参加になっている。外部の研修にも職員に合わせて参加させている。資格取得の為に勉強会への参加に合わせて勤務調整した。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会へ加入して研修参加して、積極的に意見交換し、情報収集して質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面会して困っている事、不安な事、要望などを伺い、思いを受け止めて安心して頂ける様に接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの困りごとや不安な事、要望など伺い思いを受け止め、話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることを伺い、必要としている支援を見極めて、相談窓口の紹介やサービスの内容説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事、得意とする事で役割を持って頂き、一緒に作業したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の想いや日頃の様子を伝えたり、家族の想いを聞いたりして一緒に支えあう様にしている。受診時は協力をお願いしたり、受診後の報告をしたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅付近や自宅を訪問して馴染みの人との出会いの機会やいつでも面会を受け入れている。友人、知人が訪ねやすい様に、開放的なホームの雰囲気作りに努めている。	地域の利用者が多く、散歩や買物で物産館や公園でも挨拶や会話を楽しんでいる。また馴染みの訪問者も多く、屋根付き前庭にベンチを置き、自動販売機も設置して、認知症相談などにも気軽に立ち寄っている。行きつけの美理容院の利用や墓参も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者、気の合わない利用者等関係性を把握し、孤立しない様に関わり、生活支援している。一日の中で共有の場で過ごす時間を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方のお見舞いや様子伺いに行っている。又、家族に話を伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何をするにも本人に確認し、困難な場合は言動、しぐさや表情、日々の関わりの中から見えてくる状況を確認しながら、思いをくみ取る様になっている。家族からも聞いている。	家族や馴染みの友人知人から情報を得て、日々の関わりの中で声かけの工夫をしながら表情や言動等から思いや意向を把握している。意思疎通が困難な場合は職員間で情報交換に努め、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より詳しく聞き取りをして把握に努めている。他施設からの入所の際は施設からの情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムやペースを理解し、本人の出来る事、出来ない事を関わりの中で把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望や思い、身体状況や生活歴などを把握して、職員の気づきや意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。	本人や家族の意向を汲み取った上で、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施している。見直しの必要性は理学療法士の意見も含め全職員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、実践、結果を個別記録に記入している。受診記録も個別に記入している。それらを実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、訪問看護師と連携を図り、医療へのサービスに繋がっている。又、重度化に伴い、受診困難者は訪問診察に移行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域婦人部の慰問を受け入れて交流したり、ハーモニカ演奏のボランティアの受け入れをしている。近くの公園や物産館を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望を大事にしてかかりつけ医の受診を支援している。緊急時などは、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携を図っている。	本人及び家族の希望を大切に、定期的な受診や通院介助を支援している。また、緊急時など、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携が図られている。口腔ケアも大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より体調チェックを行い、気づきや変化を把握し、週1回の訪問時に看護師に報告相談している。緊急時は随時行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は細目に足を運び、病状の把握や病院関係者との情報交換を行って早期退院に向けて支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたホームの指針を契約時に説明し、事前確認書を作成している。又、重度化した場合に再度、意思確認を行っている。訪問看護ステーションと24時間オンコール体制を取っていつでも相談、連絡できるようにになっている。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し確認を合っている。状況変化に伴い、繰り返し話し合い意思確認を行っている。職員全員がその方針を共有している。職員はその関連の勉強会や講習会に参加している。既に看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の訓練勉強会に参加している。急変や事故発生に備えて、救急時マニュアルに沿って対応できるようにしている。救急隊への情報提供カードを利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の総合消防訓練を行っている。そのうち1回は消防署立ち会いの下、地域の方々にも参加して頂き、意見や助言を頂いた。</p>	<p>年2回定期的な訓練と、毎月の自主訓練を行っている。訓練には運営推進委員や地域住民、中学生の協力があり、ヘルメットを用意するなどしている。訓練後に運営推進会議を行い、意見や助言を得て、ヘルメットにライトを付けるなど改善に反映させている。災害時の水や缶詰・食料等の備蓄がある。スプリンクラーや火災通報装置機も設置されている。</p>	
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>生活歴や職歴などを念頭に置いて個々に応じた声掛けやプライドを損なわないような言葉かけに配慮している。命令口調にならない様に心掛けている。</p>	<p>プライドを傷つけないように、言葉遣いには気をつけている。名前の呼び方で、ちゃん言葉は禁句にしている。人前で他人の話をしないと、個々に配慮している。トイレ誘導時等のケアも配慮している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>なるべく自己決定が出来る様に複数の選択肢を並べたり、表情や行動を読み取る様にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、その人の体調やペースに合わせて生活出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	いつも清潔な衣類を着て頂く様に支援している。又、2か月に1回訪問理容を利用して髪カットを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせて、出来ることは職員と共に行っている。行事食や戸外での食事会など行い、食事を楽しんで頂いている。	菜園の野菜を利用して、嗜好に配慮した献立を作っている。利用者個々人の力を活かしながら後片付けなどを職員と一緒にしている。餅つきやそば打ち・ちまき作りなども一緒にしている。行事食や外食など食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられる量、好み、嚥下状態、病気による制限など個々に合わせている。嚥下状態の悪化している方には、ソフト食の導入をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせてケアをしている。困難な方は口腔ティッシュを利用している。ポリデント消毒や歯ブラシ、コップの洗浄消毒も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄を促すため、定期的にトイレ誘導を行い、おむつや尿取パットの使用を減らす様になっている。	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながらトイレでの排泄を支援している。ヨーグルト等で食生活も工夫している。理学療法士による立位の訓練等で、排泄に重要な下肢筋力の維持にも取り組んでいる。排泄の自立した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による不穏症状を理解、把握し、なるべくトイレでの排泄を促し、排便チェックを行い、薬に頼らず、出る出る茶やヨーグルトなどを摂取して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日の体調に合わせて入浴して頂いている。	個々人の体調や希望に添った入浴ができるように支援している。2人での介助が増えてきている。入浴を拒む人には職員間で連携し、足湯に出かけたり状況改善に工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	なるべく日中は離床を促し、個 々の体調やペースで過ごして頂 き、夜間の安眠に繋げている。 午前中日光浴をしている。又、 室内環境も整えて安眠を促して いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	受診記録に処方薬の説明書を添 付して、いつでも薬の事が分か る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	新聞紙を折ったり、野菜の皮む き、洗濯物干し、たたみなど役 割を持って頂く事で、役に立っ ているという張り合いが持てる ように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	年1回1日遠足を行っている。 認知症セミナーでは舞台に立ち 踊ったりした。家族の協力によ り墓参りや、自宅へ帰宅され たりした。	日常的には近隣の散歩やドライ ブを兼ねた買物、地域の行事な どに出かけている。計画を立て て花見やピクニック、イルミネ ーション見学等に出かけてい る。家族の協力で外泊や外出・ 墓参にも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望にて、所持して買い物の際、使っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自ら電話をかけることは困難な状況である。手紙のやり取りの支援はしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>花壇には季節の花を植えてベンチを置き、廊下にはソファを置いて、いつでも休憩出来る様にしている。西日や日差しよけに遮光フィルムや簾などを使用している。畳スペースでは心地よい音楽を流している。</p>	<p>玄関前庭にベンチを置き、周囲の花壇には季節の花が植えてある。共用の空間は、木造づくりで床暖房になっている。温度や湿度に配慮し、清潔で明るい。畳スペースはボランティアの舞台になったり、昼寝でも使われている。廊下にはソファが置いてあり、居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各共有スペースに椅子を置き、いつでもゆっくりと過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものや馴染みの物品を持ち込み、家族と一緒に配置を決めたりしている。	入居の際に使い慣れたものや馴染みの物を持ち込んでもらえるように、本人及び家族に説明し、テレビや仏壇・机・写真などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫されている。床暖房のため、冬でも暖かく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に大きく赤い矢印やトイレと表示している。全体にバリアフリーとなっている。動線には手すりを付けている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない